

# 復興の歩みと感謝発信

## ねんりんピック宮城・仙台2012

シリーズ「学生同行ルポ 復興元年 弾み付く宮城」は、東日本大震災で深い痛手を受けた宮城県復興に向かう足取りを、地元の大生とともにルポする。4回目のテーマは「支え合い」。60歳以上の方々を中心にスポーツや文化活動で交流を深める第25回全国健康福祉祭「ねんりんピック宮城・仙台2012」の総会開会式が、全国のシニア選手らが地域や世代を超えて交流する姿に触れた。被災地で開かれた大会目標には、「復興」と「感謝」という視点が新たに盛り込まれ、従来と異なるイベントになった。宮城の元気な姿と復興への確かな歩みを発信した開会式は、学生たちにとり、あつたのか、村井嘉浩知事へのインタビューも交えて紹介する。

仙台市宮城野区の市立陸上競技場で10月13日開かれた総会開会式には、高城学院女子大学女子部の英文学科3年大友翔子さん(21)と、日本文学科3年及川杏奈さん(21)が同行した。約800人の選手や一般観客者約1万5000人が出席した開会式で、宮城野区、同地区下から見守る中、47都道府県、20政令市の選手団が各地のカラーを演出しながら元気に入場行進した。「よみがえれ宮城」「勇

言を行い、県選手団最高齢の島田義一郎さん(90)は、復興に向かう宮城の印象を取材した。復興が進む地域の現状を踏まえ「明るい未来へ続く希望の大会にします」と宣言した。

式典後、各選手団は競技場内を移動し、フィールド内をアトラクションを見物した。仙台のすずめ踊り、気仙沼の浪板舞など宮城を代表する伝統芸能を披露した。福岡市のソフトボール選手団の瀨川正信さん(65)は「飛行機の窓から

沿部の様子を眺めたが、テレビで見ただけの状況とは随分印象が、復興が進み、仙台の街並みもにぎわっていたと語った。

陸上競技場に隣接する多目的広場には、宮城の特産品をアピールする飲食・物販の「ふれあい広場」が設けられた。津波被災地の沿岸部市町ブースもあり、選手らが特に関心を示した。

沿部ブース盛況 気仙沼出身の及川さん

は、沿岸部物産の売れ行きなどをブース出店者らに聞いた。

気仙沼市物産振興協会職員千田誠さん(33)は「気仙沼のことを心配して、話しかけてきた皆さんに、いっぱい買っていただいた。注文が多すぎて、持ってきた物産品だけでは対応できない」と感謝した。

名取市閉上のかまぼこ製造・販売店に勤める高橋信一郎さん(63)は「感謝の気持ちを込めて特別価格で販売しているが、本当にいろいろ商品を購入してもらった。閉上のことを説明しようとしたら、皆さんの方がよく知っているの、驚いた」と話した。

ねんりんピックは宮城県内13市町を会場に開催され、10月16日開幕した。4日間の期間中、ゴルフやテニス、射撃など18種目で競い合い、関連イベントを含めた参加者は延べ51万人に達した。当初の見込みを6万人も上回り、盛り多い大会だった。



東北の復興を願う横断幕を掲げて入場行進する選手団も目立った。10月13日、仙台市陸上競技場



### 4 支え合い

#### 村井知事 学生とQ&A

#### 全国と交流 大きな支えに 復興状況数値化して発信

宮城学院女子大学芸学部3年 大友翔子さん

会場全体が一つのチームのよき雰囲気、みんなで支え合い、楽しむという気持ちで伝わってきた。会場周辺は被害が少ないため、既に復興を遂げたと感じた参加者もいた。沿岸部は引き続き支援が必要だと訴え続けなければならない。

宮城学院女子大学芸学部3年 及川杏奈さん

東北の復興を応援する横断幕を掲げた県や都市があり、うれしく感じました。物販コーナーで、被災地産品を参加選手らが感謝や励ましの言葉を交わしていたのが印象的だった。この大会が復興途上の地域にも目を向ける契機になってほしい。

復興元年 弾み付く宮城

沿部の様子を眺めたが、テレビで見ただけの状況とは随分印象が、復興が進み、仙台の街並みもにぎわっていたと語った。

陸上競技場に隣接する多目的広場には、宮城の特産品をアピールする飲食・物販の「ふれあい広場」が設けられた。津波被災地の沿岸部市町ブースもあり、選手らが特に関心を示した。

沿部ブース盛況 気仙沼出身の及川さん

は、沿岸部物産の売れ行きなどをブース出店者らに聞いた。

気仙沼市物産振興協会職員千田誠さん(33)は「気仙沼のことを心配して、話しかけてきた皆さんに、いっぱい買っていただいた。注文が多すぎて、持ってきた物産品だけでは対応できない」と感謝した。

名取市閉上のかまぼこ製造・販売店に勤める高橋信一郎さん(63)は「感謝の気持ちを込めて特別価格で販売しているが、本当にいろいろ商品を購入してもらった。閉上のことを説明しようとしたら、皆さんの方がよく知っているの、驚いた」と話した。

ねんりんピックは宮城県内13市町を会場に開催され、10月16日開幕した。4日間の期間中、ゴルフやテニス、射撃など18種目で競い合い、関連イベントを含めた参加者は延べ51万人に達した。当初の見込みを6万人も上回り、盛り多い大会だった。

復興元年 弾み付く宮城

沿部の様子を眺めたが、テレビで見ただけの状況とは随分印象が、復興が進み、仙台の街並みもにぎわっていたと語った。

陸上競技場に隣接する多目的広場には、宮城の特産品をアピールする飲食・物販の「ふれあい広場」が設けられた。津波被災地の沿岸部市町ブースもあり、選手らが特に関心を示した。

沿部ブース盛況 気仙沼出身の及川さん

は、沿岸部物産の売れ行きなどをブース出店者らに聞いた。

気仙沼市物産振興協会職員千田誠さん(33)は「気仙沼のことを心配して、話しかけてきた皆さんに、いっぱい買っていただいた。注文が多すぎて、持ってきた物産品だけでは対応できない」と感謝した。

名取市閉上のかまぼこ製造・販売店に勤める高橋信一郎さん(63)は「感謝の気持ちを込めて特別価格で販売しているが、本当にいろいろ商品を購入してもらった。閉上のことを説明しようとしたら、皆さんの方がよく知っているの、驚いた」と話した。

ねんりんピックは宮城県内13市町を会場に開催され、10月16日開幕した。4日間の期間中、ゴルフやテニス、射撃など18種目で競い合い、関連イベントを含めた参加者は延べ51万人に達した。当初の見込みを6万人も上回り、盛り多い大会だった。



宮城学院女子大学芸学部3年 大友翔子さん



学生の質問に答える村井知事。宮城県庁

### セキスイハイム

SMARTHEIM CITY PROJECT TOHOKU

## スマートハイムシティ・プロジェクト

# スマートハイムの街づくり、東北からスタート。

地球と地域にやさしい先進の分譲地

「スマートハイムシティ」は、大容量太陽光発電による「創エネ」と大容量太陽光発電で発電した電力や、深夜電力を貯める蓄電池による「蓄エネ」、さらには電力の需要状況を「見える化」するHEMSによる「省エネ」を可能とした「進・スマートハイム」による街づくりです。お客様にとって環境に優しく、光熱費が少なくて済む暮らしを可能にします。さらに、「住むほどに進化する街づくり」をコンセプトに、街全体をトータルにプランニングし、付加価値の高い住まいの提供を目指しています。

**創エネ** 大容量太陽光発電システム 平均4kW以上の大容量ソーラーで電力をたっぷり発電。業界1位<sup>※2</sup>を誇る搭載実績に裏付けられた技術で、各家庭に街全体にたくさんのエネルギーを供給します。

**蓄エネ** 蓄電システム「e-Pocket」 電力を蓄えて、必要な時に利用。できるだけ「買う電力」に頼らない、環境にも家計にも優しい暮らしを実現します。停電時でも安心な暮らしが可能となります。

**省エネ** コンサルティング型HEMS 「スマートハイム・ナビ」で各居室や家電製品などの使用電力を分かりやすく見える化。コンサルサービスも加わり、ムリなく効率的に省エネをサポートします。

**街づくりをトータルプランニング** 街全体をトータルにプランニングし、資産価値の維持・向上を図ります。

**コミュニティ・グリーン** 緑が会話を生み、コミュニケーションを育むコミュニティの新しいカタチ。

**電気自動車専用コンセント装備** 完全に電気自動車やプラグインハイブリッド車に充電できる専用コンセントを装備。

※1 一部地域では搭載できない場合があります。  
※2 太陽光発電システム搭載住宅(リフォームを含む)のセキスイハイムグループ建設実績105,855棟(2011年12月末現在)は、業界1位です。(積水化学調べ)